

第7回 地域づくり計画策定部会 会議録

1. 日時 2013年2月10日(日) 14:00~16:00
2. 場所 新千里東町コミュニティルーム
3. 出席者：清水(理事)・蘆江(理事)・十河(理事)・草場(理事)
武藤・柳原・山田・森岡(事務局)
4. 内容
 - (1)東丘版 コミュニティ・スクール検討部会
別の報告書の通り
 - (2)その他の課題の次年度活動方針について
 - ①高齢者問題計画推進部会
 - ・テーマ【要介護高齢者施設誘致活動】
【各シニアクラブの活動の活発化と新設支援活動】
【安否確認システム作り検討】
 - ・これらのテーマについて、推進(実行)活動ないし計画検討活動を行う。
 - ・部会長は老人クラブ連絡会を代表する清水博文氏とし、部会メンバーは福祉委員会等関係諸団体の代表、及び各老人クラブ or 各自治会の代表
 - ②環境改善部会
 - ・環境アンケート結果を基に緊急度・重要度を審査し、理事会に答申する。
 - ・環境問題は時間経過とともに居住者の入れ替わりや植栽の成長など変化があり、継続的にフォローする必要がある。環境見守り隊を常置し、調査・対処する。
 - ③拠点整備検討部会
 - ・近隣センター建替プロジェクトに地域自治協議会を代表して参加、関与する。
 - ④地域づくり計画策定部会
 - ・地域自治協議会設立時に掲げた課題の内、検討ないし実行のフェーズに至っていない次の課題について、取り上げ方を検討する。
 - ・課題：自治会連携活動検討
安心安全事業検討
防犯検討
生涯学習検討
5. 次回部会の開催日：3月23日(土) 10:00~12:00 コミュニティルーム

以上



東町を、さらに元気にする方法を考える 東丘版 コミュニティ・スクール 検討部会

設置の趣旨

東町は人工的に計画された町なので、地域の結びつきの核となる神社や仏閣が無い。その核となっているのが「学校」だと言える。東日本大震災には、復興などの活動も学校が核となって始まったところも多いと聞く。「学校」を地域の核として、東町住民の活力の源とする「東町の描くコミュニティ・スクール像」を浮かび上がらせ、東町のみんなが願うビジョンの実現に寄与したい。

活動内容

「学校の課題」と「地域の課題」を共有・調整・検討し、学校を新しい町づくりの「核」になるものとして考える。



人が集まる施設 = 学校を目指す

●教育施設の有効利用（体育館、理科室、図書館などの住民利用）

●コミュニティ・スクール

小中一貫・小中高一貫：教育カリキュラムに余裕ができる。

ex. 「豊中千里学園」とすれば、大きなブランド力ある。

東町の価値が上がる。

描いた「コミュニティ・スクール像」から協働団体・実現手順などを検討して行く。

部会構成

蘆江部会長(理事)・三村副部会長(理事)・十河(理事)・草場(理事)・森岡(事務局)

これまでの活動

8月より、毎月1回、約2時間の部会を開催し討議を重ねています。

第1回 部会	第2回 部会	第3回 部会	第4回 部会	第5回 部会	第6回 部会
8月21日(日)	9月16日(日)	10月13日(土)	11月3日(日)	12月9日(日)	1月14日(祝)
部会活動方針と「東町コミュニティ・スクール」についてのフリートーク	「コミュニティ・スクール学習会」by十河校長	目的・CS像・スケジュールなどメンバーの共通認識の統一	市社協の勝部、石川氏をゲストに子育て施設の検討	「東町コミュニティ・スクール」の施設について協議	予定 次年度の計画など

第5回より分科会を廃し、当部会と「各団地に共通ないしまたがる課題解決の検討部会」とを「地域づくり計画策定部会」として統合した。

来年の計画

東町の建替えなどにより影響される事項も多くあるが、来年度は下記の項目を検討し、2項目くらいの予算化・計画化を予定している。

- ・すでに運営されているコミュニティ・スクールの見学。
- ・東町の地域施設と教育施設の把握。
- ・協働する地域団体の検討。

第7回 地域づくり計画策定部会

テーマ] 東丘版 コミュニティ・スクール検討部会 会議記録

1. 日時 2013年2月10日(日) 14:00~16:00
2. 場所 新千里東町コミュニティルーム
3. 出席者: 清水(理事)・蘆江(理事)・十河(理事)・草場(理事)
(事務局/武藤・柳原・山田・森岡)

4. 内容

(1) 1月23日(水) 学校内別施設運営の見学報告

- ・豊中市立 第13中学校(デイサービス施設と中学校の併設)
- ・豊中市立 大池小学校(コミュニティプラザと小学校の併設)

(2) 次年度の部会活動とスケジュールについて

**「コミュニティルームをさらに使いやすく活用するため」の
具体的検討をすすめる。**

- ① 9月までを、下記の準備期間とする。
 - 施設管理の関係部署と、改善点の確認と調整。
(コミュニティルーム・郷土資料室・多目的教室・英語室・PTA室の混在解消)
 - 活用イメージ(コミュニティルームの必要性)の検討。
(高齢者の居場所・東町大学(地域の人材活用)・子ども講座・世代間交流)
 - 運営方式、費用の検討。
(警備、門、フェンス…)
- ② 10月以降 施設改善策(ハード)、運営施策(ソフト)の要望書をまとめて関係部署へ提出する。

(3) 次年度予算(案)

- ・東町大学(コミュニティルーム活用の講座) 月2回(10月以降)
予算 ¥24,000
- ・施設見学(京都市立御所南小)20名分交通費
予算 ¥40,000

**次回部会の開催日: 3月23日(土) 10:00~12:00 コミュニティルーム
(地域づくり計画策定部会合同にて開催)**

2012年度（平成24年度）防災部会の活動報告

1. 防災部会のねらい

東日本大震災を教訓として、日頃からの地震など危機事態への対応策策定と対応能力向上の重要性を認識し、東丘小学校区を範囲とする東町地域としての危機管理（地震など危機事態への一連の活動）について、現状と課題を整理し、自助、共助、公助の相互連携による災害などの危機事態への迅速かつ的確な対応力を向上する。

東町地区（東丘小学校区）は複数の集合住宅から構成され、各集合住宅内は自治会、および管理組合にて防災への備えが必要になる。東町地域自治協議会が各自治会や管理組合と連携し、地域としての防災組織を構築する。

2. 部会組織

部会長：大路（アーバンライフ） 副部会長：和田（防犯）

部会メンバー：安井（福祉）、吉田（メゾン）、田邊（桜ヶ丘）、西村（桜ヶ丘）、鈴木（アーバンライフ）、沼田（OPH）、笠岡（ガーデンヒルズ）、大矢（ジオメゾン）、明智（ジオメゾン）、横山（UR）、古橋（UR）、福岡（UR）、河野（3の3）、石丸（3の3）、門田（あかしや）、谷本（あかしや）、坂上（防犯）、武藤（桜ヶ丘）、山田（桜ヶ丘） 清水（ガーデンヒルズ）

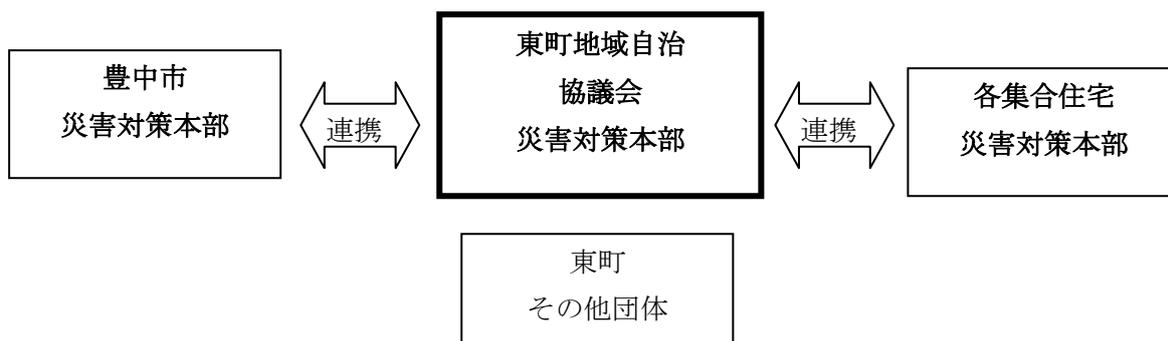
3. 自主防災活動の活動項目と活動主体の整理

<自主防災活動の活動項目と活動主体>

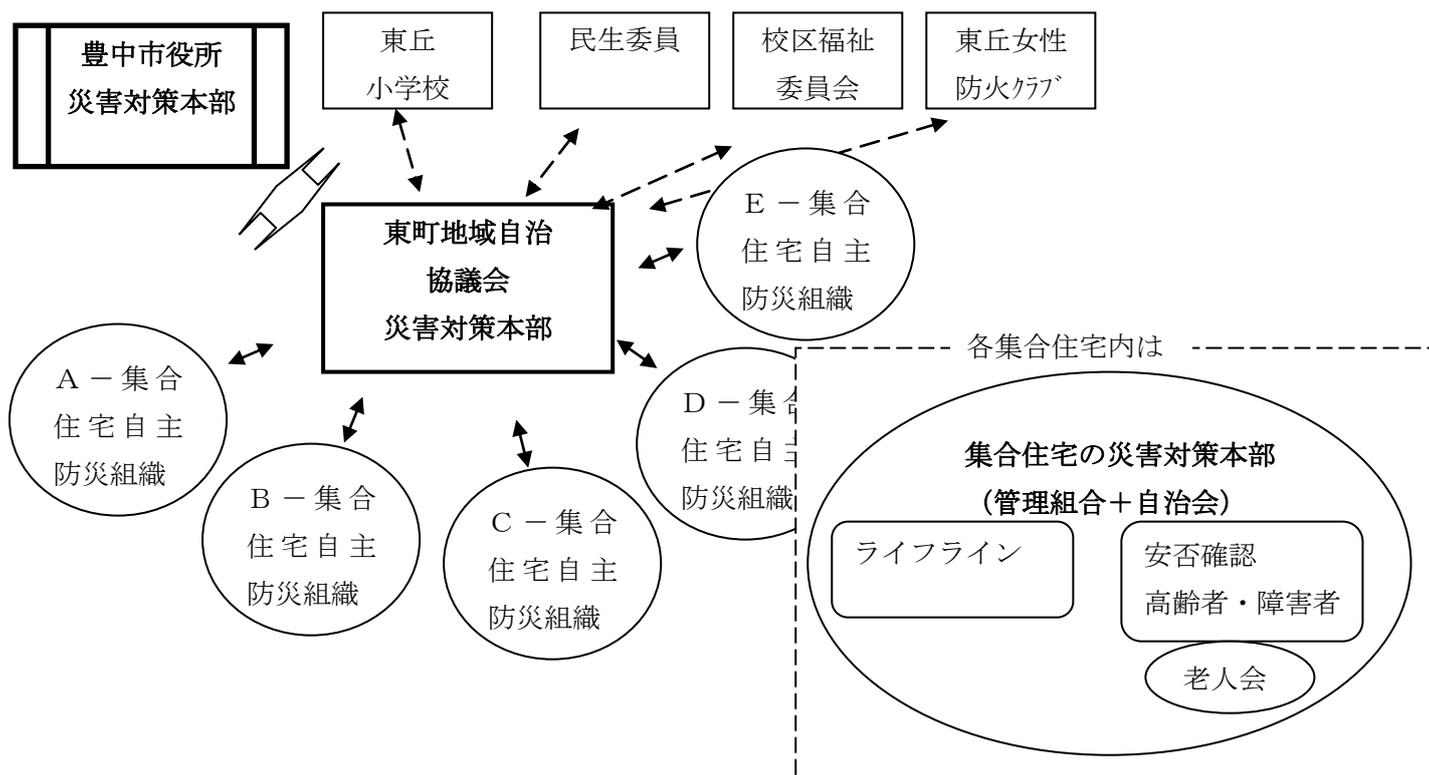
活動項目 活動主体	①啓蒙活動 (知る)	被災時の活動			⑤訓練	⑥市との連携
		②防災体制	③安否確認	④ライフライン（資器材、物資備蓄）		
東町地域自治協議会	●（自治会へ連携）	●	●（福祉カバ一部分あり）	●	●	●
各集合住宅内の自治会・管理組合	●	●	●	●	●	

*ライフライン（水、食料、トイレ）

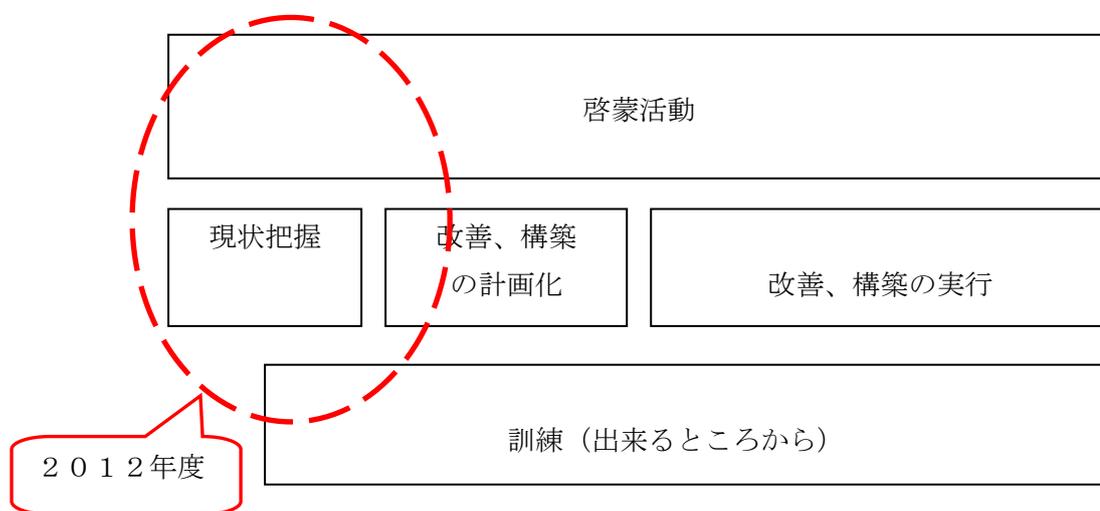
<市と東町との災害対策本部との連携イメージ>



<市と東町の災害対策本部との連携イメージ>



4. 防災部会の活動ロードマップ



5. 本年度活動内容

1) 本年度部会活動

8/4～9/9：防災アンケート実施（各集合住宅住民の防災活動と防災意識の現状把握）

9/23：第1回防災部会（アンケートの結果フィードバック、各住宅での状況と今後活動）

10/28：第2回防災部会（豊中市地域の防災体制の考え方、平常時の防災活動について討議）



11/25：第3回防災部会（福祉での安否確認、次年度の防災部会の活動の討議「防災体制作りと継続的な訓練、しくみづくり」）

12/23：第4回防災部会（次年度防災部会の活動討議「防災体制作りと継続的な訓練、しくみづくり」その2）

1/27：第5回防災部会（災害発生時の機材倉庫など市の対応情報、次年度防災部会の活動討議「防災に対する住民の意識向上ための啓蒙活動」）

2/24：第6回防災部会（本年度防災部会の活動報告書の確認、次年度防災部会活動活動計画案の確認、次年度防災部会予算書の確認）



2) 地域としての次年度防災活動の実施項目については、次の通りとなった。

重点実施領域として、「防災体制作りと継続的な訓練、しくみづくり」と「防災に対する住民の意識向上ための啓蒙活動」と取り上げて推進する方針となった。

①「防災体制作りと継続的な訓練、しくみづくり」の領域

- ・実施した防災アンケートでは、地域としての防災対策は8割が必要と考えている
- ・地域としての災害対策本部組織のイメージを定義する
- ・災害対策本部組織は役割と人を決め文書化し、いざという時にその人がいなければ、その場で役割に対して担当する人を決め組織化する。これが機能するためにも訓練とマニュアル化が必要である。
- ・地域としては、各集合住宅（自治会や管理組合）や各住戸でできないことをやるべき
- ・地域としての備蓄や避難場所など地域の防災情報の展開
- ・街全体の防災組織と各集合住宅の自治会、管理組合の防災組織との役割分担の明確化を図る

②「防災に対する住民の意識向上ための啓蒙活動」の領域

- ・実施防災アンケートでは、地震発生の危険性への認識は約6割であるが、具体的行動は弱い
- ・住宅により、防災への活動は差が大きく、各集合住宅での活動内容の横展開が役立つ
- ・各集合住宅での自主防災活動の推進は、各集合住宅の自治会や管理組合の役割であるが、防災部員や協議会理事を通じて、その推進を支援
- ・各集合住宅の活動の横展や情報交換のためのラウンドテーブルの開催など実施し支援

5. 防災部会メンバーの活動

- ・防災部会の活動に加えて、防災部会からの情報を自分の所属する集合住宅や町の団体へ協議会理事と連携し展開
- ・集合住宅内での自治会、管理組合、老人会、民生委員などに働きかけ、住民の防災意識の啓蒙活動、集合住宅としての自主防災活動の組織化、防災マニュアル作成、備蓄充実、災害時資材充実、訓練実施などを推進

添付資料

- 1) 防災アンケートのまとめ
- 2) 防災部会ワークショップのまとめ

- 3) 防災にかかる資材倉庫と備蓄についての情報メモ
- 4) 気象庁震度階級
- 5) 地区防災圏（小学校を拠点）における自主防災活動の活性化について
- 6) 参考資料
 - ・冊子：わが家の防災マップ
 - ・冊子：自主防災パンフレット「日頃やっていないことは災害時にはできない」

添付資料1. 防災アンケートまとめ

当アンケートは、各集合住宅の自治会長宛てに、回答を依頼しました。

今回のアンケートより、各集合住宅での防災について各項目の結果は、次の通りでした。

- 1) 地震発生危険性への認識は約6割
- 2) 各家庭での地震への日頃の備えは、「実施している住戸もある」との状況
- 3) 集合住宅としては、自主防災組織が設置されている住宅は約3割、どの住宅も自主防災組織の設置や防災対策を進めることが必要と考えている。
- 4) 住宅の防災訓練を実施している住宅は約4割で、防災出前講座の活用は6割
- 5) 地域としての防災対策は8割が必要と考えている
- 6) 市の防災計画、備蓄、体制などあまり展開されていない
- 7) 管理組合との連携が必要

<各項目への回答結果>

as of 2012.09.13																	
自治会名 / 項目	啓蒙				家庭				集合住宅				地域				住宅
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
メゾン千里理事会	①	不明	不明	不明	①	②	①	①	②	②	②	不明	不明	①	②	不明	
新千里桜ヶ丘自治会	②	①	①	②	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
新千里東町アーバンライフ管理組合	(①)	(③)	(③)	(③)	①	②	①	①	①	②	②	①	①	①	②	①	
OPH新千里東町自治会	②	②	②	②	②	②	①	①	③	②	①	②	②	②	③	②	
ガーデンヒルズ千里中央管理組合	①	不明	不明	不明	(①)	②	①	①	③	①	②	①	①	常識的に	③	①	
ジオメゾン新千里東町自治会	①	②	②	③	①	②	①	①	②	①	②	①	①	①	②	①	
新千里東町商店会																	
UR都市機構新千里東町自治会	②	②	②	②	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
東町3の3自治会	①	①	②	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
ローレルコート新千里東町あかしやの丘自治会	②	②	②	②	①	②	①	①	①	②	①	①	①	①	②	①	
①の回答率=>	0.6	0.2	0.1	0.1	0.9	0.3	1.0	1.0	0.6	0.4	0.6	0.8	0.8	0.8	0.3	0.8	
新千里東町地域自治協議会 防災部会																	

<アンケート項目内容>

1. 上町断層帯地震、東南海・南海地震の発生の危険性があることをご存知ですか
(①知っている人が多い ②知っている人もいる ③ほとんど知らない)
2. 家庭でできる安全対策(家具の固定や家具の配置換えなど)を実施していますか
(①実施住戸が多い ②実施住戸もある ③実施住戸はほとんどない)
3. 助かるために家庭内で日頃からの備蓄(最低3日分の食料、水、懐中電灯、携帯ラジオなど)の備えしていますか
(①実施住戸が多い ②実施住戸もある ③実施住戸はほとんどない)
4. 地震が発生したとき、家族と一緒にいるとは限りません。家庭内で、避難方法や連絡方法など話し合っていますか
(①実施住戸が多い ②実施住戸もある ③実施住戸はほとんどない)
5. 集合住宅内に自主防災組織(協力体制)が必要と考えますか。
(①必要である ②必要でない)
6. 集合住宅内に自主防災組織がありますか
(①ある ②ない)
7. 集合住宅内の障害者、被介護者、一人暮らしシルバーなども鑑みた安否確認の助け合いが必要と思いますか
(①必要である ②必要でない)
8. 地震で被害を受けた際の集合住宅内の食料、水、トイレなど備蓄や設備が必要と思いますか
(①必要である ②必要でない)
9. 地震で被害を受けた際の集合住宅内の食料、水、トイレなど備蓄や設備の現状をご存知ですか
(①知っている ②よく知らない ③まったく知らない)
10. 集合住宅内で非難訓練、炊き出し体験など防災訓練を実施していますか
(①実施している ②実施していない)
11. 豊中市には「防災についての出前講座」がありますが、開催したことがありますか
(①開催した(いつ頃:2011年10月) ②開催していない)
12. 地域ぐるみの防災訓練が必要と思いますか
(①必要である ②必要でない)
13. 市と連携する東町地域の自主防災組織(協力体制)は必要と思いますか
(①必要である ②必要でない)
14. また、その構築時期は急ぐべきと思いますか
(①急ぐべき ②急がでない)
15. 豊中市の構築している地域の防災計画、備蓄、体制についてご存知ですか
(①知っている ②よく知らない ③まったく知らない)
16. 防災では、管理組合と自治会が連携すべきと考えますか
(①連携が必要である ②連携は必要でない)

添付資料2. 防災部会ワークショップのまとめ

地域自治協議会防災部会 第1回・第2回ワークショップにおける意見	
①-1防災体制 自主防災組織作り	①-2 防災体制 助け・助けられネット構築
管理組合、自治会、老人会、ボランティア組織と別々に作られている中で防災体制を整える工夫、腕力が必要	安否確認は日頃から居住者が把握されているのが重要、全居住者が把握されていれば別の対策にもなる
管理組合が主体となって組織作り。自治会の防災委員はその下に入る。備蓄など大きな予算が必要な事は管理組合が担当する。	個人情報保護法が妨げとなっているが、生命にかかわることなのでもうすこし情報を開示してもらいたい
管理組合、自治会、地域防災部会、市が役割分担を明確にする	安否確認の方法を、特に老人、障害者が重要とする
防災体制は、各マンションでまず組織作り、その上で地域の組織を立ち上げる	同居(者)の確認、ひとり暮らしの安否確認
各自治会単位で組織の立ち上げ。陣容は10戸に1名位	安否確認の組織作り。人の輪づくり。まず、向う3軒両隣りの交流から。
東町で核となる組織を立ち上げ、各自治会が統一した準備をすることが必要	地域ごとの連絡網を作り連絡をとれる体制にしておく、メールなどの安否確認を使用するのも良いのでは？
地域での防災組織の確立が必要	全ては把握できていない、防火活動のような形で防災について話し合いや活動を
各自治会には防災組織がある、自治会を元に東丘1本で作るのも大事	居住者名簿の整理方法が難問、行政からの支援はあるのか？
地域防災ネットワーク(各団体間)	個人情報の関係(問題)、名簿登録を拒否される
災害時を想定した連絡方法、ネットワークづくり。リーダーになれる人を育てる。	居住者の確認(民生委員との連携)強化
組織作りには良いリーダーが必要	支援の必要な人の情報が開示されない前提でネット構築を考えなければならない
自治会が5つあり、防災の話し合いが不可能。自治会ないで話し合う、周知することが大事…メゾン千里	非公開主義の人達の中に、1人情報公開に協力する人を見つけ、その人を情報交流の核とする緩やかなネットを考えてもよい
自治会で活動に力を入れる。防災活動のメンバーを募る。	個人情報に関係してくるので、豊中市が個人の意思確認が第1歩
防災活動を継続するための実行ツールとして自主防災組織を立ち上げる	実施者と担当範囲の明確化(日頃の訓練も必要)
自主防災組織あり。部長(自治会長)、部員(自治会役員)…新千里東町	住戸の表札がない
集合住宅で被災を想定し、それに向けた体制をつくっていくべき	高齢者の多い集合住宅における体制強化
自治会役員ができるだけ近隣の状況を把握できないか	アーバンライフはまず居住者の把握から始めなくてはなりません(個人で利用できる名簿なし)
防災本部の設置を急ぐ	施設に泊まっている障害者等もあり、障害者等の生活状況を調べておく必要がある
自治会における防災組織の確立	安否確認者本人の被災時の安否確認対象者との連絡が不能になった場合？
訓練を継続する仕組み作りを考慮しておく	家具転倒防止研究会
マンションタイプの防災組織規約等のひな型を作り、マンションの組織作りを支援	
防災組織体制確立の支援とフォロー	

地域自治協議会防災部会 第1回・第2回ワークショップにおける意見	
③-1情報・連結	③-2情報・連結
防災に係る意識づけ	防災に係る啓蒙講習会
防災の各自の工夫を共有する。その作業を通して協力関係が生まれる	地震・火事に関するポスターを作成・掲示し、防災意識を高めてもらう。防災部会があることを知らない人がほとんどである
共同住宅、地域とも現在の意識レベルでは即効性のある方法はない。地道に意識を高める他ない。	地震について、「マグニチュード」「震度」など基本的技術的なこと、「安全性とは何か」などの話を専門家から願います
啓発活動は定期的に行い、住民に当事者意識を持ってもらう	自治会新聞の活用(ひがしおか含む)
URIは空室が多いのでその情報を確実に	防災情報を住民に発信(事例、部会進捗)(ひがしおかに専用コーナーを設ける)
講座や話し合える場を積極的に作る	細かい丁寧な情報を伝えてほしい
防災への関心喚起。会員・非会員ともに	市、消防署などの防災講習会を利用し、啓蒙に努める
道路の電柱や看板等に地震等の避難場所をわかりやすく掲示する	地域防災力アップセミナーに参加されては！
日頃からの防災の関心を持ってもらう、冊子やパンフレットの配布	(災害用備蓄品の必要性について)具体的に示し、啓蒙を続ける
自助、共助、公助のしわけ(マニュアル化)	新千里東町、定期的に防災訓練実施(消防署、危機管理室の協力を得ている)。参加者少ない、啓蒙のUP必要。
個人でできる減災と災害予防の取組み	市から防災ガイドなどもう少しアナウンスし各自が体制の強化を図る
震度予想が変わる可能性があると言っているが本当か？	個人でできる減災と災害予防の取組み
なかなか多くの人の参加が難しい、わかりやすく興味をもっていただく工夫が必要	防災出前講座、消防訓練を毎年実施していますが、参加者がすくない、地域で啓蒙活動をすれば増えると思います
防災出前講座、消防訓練を毎年実施していますが、参加者がすくない、地域で啓蒙活動をすれば増えると思います	各住戸への防災マニュアルの配布
年間行事として定着させる、お祭り要素を入れる	防災の一般的知識、ただし、集合住宅としての防災知識を啓蒙することがより身につくと考える
まず自助ということで各家庭で確保するよう啓蒙する	今期は①に集中した方がよい。それも東町全体から始める
メゾン千里は自治会が分散しておりまとまりが難しい	定期的な出前講座の開催
啓蒙は市が中心にやってほしい、他の地域も同じ課題と思うから	出前講座の活用でスタッフの養成を
タイル外壁、ガラス窓などの下は危険	冊子は読まない
防災意識作りのため挨拶運動から	防災知識の普及
マンションでの防災活動取り組み状況を情報誌に掲載し、意識のレベルアップを図る	家具などの転倒防止策の啓蒙
	地震災害による危険とは何かが不明

地域自治協議会防災部会 第1回・第2回ワークショップにおける意見	
②点検	④消火
安全点検・防災資機材点検	出火防止・初期消火の啓発・消火訓練
資機材の保管場所を確保し、機材の点検出来る人を決めておく。定期的な点検と定期的な入替時期の確認	自助として、各家庭での消火器設置の確認、初期消火への対応教育
各自治会における資機材の整備状況を他の自治会でも情報共有(災害時の資機材の融通も想定)	東丘女性防火クラブの合言葉は「我が家から火事を出さない」
地域での防災資機材の場所、内容の把握、整備が必要	自宅の中での火災、消火施設についての学習
電気が止まれば、(デジタルの)印刷機もコピー機も使えなくなる。昔の謄写版のようなアナログ機材が必要になる	消火器の使用法の練習(建替え住宅に備え付けられていた消火器を活用しては)
自身・家族の3日間生きるための自助準備の点検	消火器の使用になれる
まず、家庭内の安全。そのために防災グッズの展示即売会を実施してほしい	階段に設置されている消火器の使用ができるか?
避難場所である学校に非常用の備蓄があるのか?数、品目など	防火組織をしっかりと作り、防火訓練を欠かさない
盆踊りや運動会等の資機材は災害時に役立つものが多い。それを先に点検・整理	マンションの自主防災組織の活動として実施していく
各マンション等でしっかり管理する	消火訓練や各種訓練の実施
まず、各住宅(我が家)の自分でできることからやる。例えば、非常持出品の整備、家具の転倒防止、避難路の確保	各団地での定期的訓練の実施。消防署の協力を得る
自治会役員にて年1回位は行ったほうがよい	訓練を入れた消防講座を自治会で何度か設ける
月1回など決めて管理組合、自治会で確認	住居ごとに毎年防火訓練を繰り返す
いざという時に備えて非常用持ち出し品	防火訓練を定期的実施する(自分の処は、既に実施している)
訓練とともに各家庭に消火器を備える	2年に1度くらいは行った方がよい。棟内消火栓のある場所など不明である。
新千里東町、防災倉庫あり。東丘小学校?備品(品目、数量)の確認と整備	新千里東町、年1回消防訓練(消防署の協力を得て)実施。(消火訓練、AEDなど)、参加者少ない、意識UP、強化が必要。
以前消防署の出前講座で建物は耐震なので大丈夫、タンス等が倒れないように対策をしてくださいといわれた	地域で連携した防災訓練の実施
東丘住宅の建て替え後の防災機器見学、倉庫	桜ヶ丘管理組合は年1回消防訓練を実施、参加者の増が課題
非常物資と情報を明確化することが必要、団地や個人では各任せる	非常時にガス元栓を閉め、電気ブレーカーを落とし、戸締りしてから避難
地域ごとに備蓄できるようにしておく	
備蓄区分(住戸・団地・東町)の区分の明示	
各住戸での備蓄は賞味期限問題があり、難しい	
地域として最小限備えるべき資機材は検討しておくべき	
非常用電源の準備、非常用固定電話の準備	

地域自治協議会防災部会 第1回・第2回ワークショップにおける意見	
⑤救出・救護	⑥避難誘導
救出・救護訓練	避難訓練
家具の転倒防止対策	高層住宅での避難訓練は困難。防災教育の中での啓蒙、指導が重要では。
マンションのエレベーター閉じ込めなどの現実的な訓練の実施	避難用の梯子の訓練が実施されていないが、実際に使用となると事故が起きる
パールやジャッキなどの(救出用具)の使い方をマスターする	休日災害の際、一時避難の小学校の各門を開けるのはだれが？など具体的にまず身近なところから決めていく必要あり
応急手当方法の習得促進のため講習会、訓練の実施	簡単にできる災害図上訓練を家庭で実施する
常備の笛を持つ、置いておく	避難誘導は指導が必要であるから地域でやってほしい
救出・救護は指導が必要であるから地域でやってほしい	避難ハッチ設置場所の確認(消防署検査で不足)
市の協力などで分かりやすく訓練	避難誘導の動線を事前に点検しておく。次善のルートも準備
無事ですよカードの利用を確実なものに、普及、事前配布	日頃より地域で訓練
全住戸の参加を確認する仕組みづくり	避難する必要の可否判断の基準は？
自治会、福祉委員会の連携が必要、現状は単独行動で効率が悪い	まず、団地毎の避難先の区割り(確認)
校区福祉との関係を蜜に！	あらかじめ指定された避難場所への訓練を行ってみる
災害時に「私は大丈夫です」のマグネット板をドアに掲げることになっている	新千里東町、避難訓練実施していない、(避難ルートの確保、避難場所の確認)
八中による救出救護体制なども考える、東丘小だけではなく	マンション内の避難経路の確認(消防署検査で不足)
ハンディキャップのある人(足が不自由、ねたきり、認知症)の救出方法を検討、名簿の作成、車椅子・ストレッチャーの保管・定期点検	現状を日頃からお伝えして各家庭で準備を
高層マンションの高層階に古くからの住人が固まっている現象、意外と学校にひなんする人が多くなる可能性	マンション内で現状、実態を認識する
玄関ドアが開かない時の対策	非難経路の確認、訓練
	防災マップ作製
	階段・通路など共用部分に物の放置がないか自治会で点検する。ベランダ避難用隔壁板付近に物の放置はないか
	団地毎に3分の1の訓練参加を目標にする、数年間で対応可能
	避難路として地域内の道に名をつけ、そのシンボルを決める
	東町として体験してみる、その結果から更なる改善を検討する

地域自治協議会防災部会 第1回・第2回ワークショップにおける意見	
⑦給食・給水・トイレ	⑧避難所
給食・給水・トイレ訓練	避難路、避難所、家族との連絡方法当の確認
ライフライン停止で水道が止まる。トイレの問題重大。簡易トイレの設置。	家族内で連絡方法や避難場所を相談しておく等の防災情報についてPRしていく
避難する場所での臨時トイレの設置(平常時にどこに保管するか)	家族内の十分な討議、内容の確認。家族が離れ離れの状況で災害が起こったとき
最大の不安はトイレ。町じゅう糞まみれになるだろうか？	自助が重要であることの啓蒙。避難所・路、避難する方法、連絡方法など家族内での話し合い、確認
高層住宅が多いので断水を考えトイレ用に風呂の水を抜かない	家族で避難場所を決めておく。伝言ダイヤル(171)のやり方を家族で話し合っておく
風呂水の飲料化。EM菌などの活用・研究。安全性を科学的に確認できるか。	東町は安全でも大災害のとき避難民が押し寄せることは考えられる
備蓄倉庫を後から作るのは難しい。機械式立体駐車場に余力が生じる。流用してよいか。	7千人の東町に2万人の避難者が来た場合、対応事例はあるか？
阪神震災後は水、カンヅメなどは個人で備蓄	東町の住民が東丘小へ集中した場合対応可なのか？地域で事前に分散しておかなくても良いのか。
地域として保存食の管理場所の設置の把握	忘れて171(イナイ)よ、活用東丘小、第8中学校
まず、各戸ごとの用意	避難施設、一時避難地の確認
地域までの浄水場からの送水系路を教えてほしい、送水はポンプか、高低差か、水圧は？	正しい情報の収集、家族との緊急連絡方法
2~3日は、自力で対応できる飲料水、常備薬などの確保	コミュニティFMの活用(受信機の購入・各戸配布)
災害時に有効な自動販売機があるとよい	災害時携帯電話に緊急情報を迅速に伝達できるよう自治体で考える
水・ガス・電気・情報が長期間停まった場合の具体策を立案する。個人が準備することを心がける	情報(アマチュア無線・非常通信・救援活動)とデマに惑わされないよう
急場の必需品の備蓄を倉庫など公園に設けては。	まず、家族の安否確認が確実にできるよう家族内で打ち合わせをもらう
実際の被災地での実情を撮影したDVDで勉強する。	避難所の備品の確認・補充
ライフライン(水、食料、トイレ)の設置場所、量の明確化	緊急車両の通行道路の確保
ライフラインの確保と充実が最優先	団地毎に避難所の明確化
耐震性ライフラインへの切り替え	夜間の災害時に東丘小の門扉解錠はどうか
幼児のいる家庭では風呂の水張りは危険	避難所を地図・道路に表示する
ペットボトルの水の品質保持期間は	避難所が東丘小ということが各自に伝わっていない
天安門方式(広場側溝利用)のトイレ検討	トランシーバーの数を多く、アマチュア無線も行政無線とリンクできるように
非常用食料はある程度地域で容易する	
給食・給水班の責任者の指名	

添付資料 3. 防災にかかる資材倉庫と備蓄についての情報メモ (2012年12月19日豊中市役所より)

○資機材収納庫：東丘小学校に有

資機材：ハンマー、バール、大バール、のこぎり、スコップ、ツルハシ、掛矢、おの、
鉄線バサミ、ロープ、ヘルメット、担架、防水シート、チェンブロック、
ジャッキ、携帯用拡声器、携帯用投光器、水バケツ、軍手

資機材収納庫鍵管理：各小学校、危機管理室、消防本部

※地域の代表も鍵所有の場合あり。

※『豊中市自主防災パンフレット P19』より

○小学校体育館の鍵開錠

小・中学校の避難所開設要員 2 名（自宅から概ね 30 分以内に避難所に出勤可能な職員
教育委員会、市長部局各 1 名
災害発生時は直接避難所開設に向かう。）

※避難所開設要員 2 名は、年度初めに学校に出向き、校長先生と災害時の対応に
ついて確認を行っています。

※学校長の判断で、地域の代表の方に鍵を預けている場合有。

東丘小学校区では、公民分館長があずかっておられます。

※『平成 21 年度 豊中市地域防災計画 第 3 章災害応急対策』より

○社会福祉協議会・民生委員の災害時安否確認

豊中市の震度 6 弱以上の地震発生

⇒小学校（体育館附近）に自主参集（校区福祉委員、民生・児童委員）

⇒ある程度集まった時点で班分け

⇒安否確認の実施

⇒集約・報告（安否確認実施機関代表者、学校派遣の市職員：災害援護部援護班）

※第 3 回防災部会配布『豊中市重度障害者等安否確認事業』資料より

○備蓄倉庫：北丘小学校 4 号館 1 階

※以前は、東丘小学校内に備蓄倉庫を確保していたが、余裕教室不足のため、北丘小学校へ移設。北
丘小学校分の備蓄倉庫とは別管理。

在庫：毛布 850 枚、ござ 850 枚、アルファ米 3,000 食、

おむつ（乳幼児用 540 枚、高齢者用 302 枚）

生理用品 3,264 個

鍵管理：各小学校（地域から鍵所有の要望があれば応相談）

※危機管理室に確認

※上記資材や備蓄は、東町専用に準備されたものではありません

2013 年度防災部会活動計画（案）

1. 2013 年度部会活動方針

次の 2 項目を重点領域として活動する。

- ①「地域としての防災体制作りと継続的な訓練やマニュアル化のしくみづくり」
- ②「防災に対する住民の意識向上ための啓蒙活動」

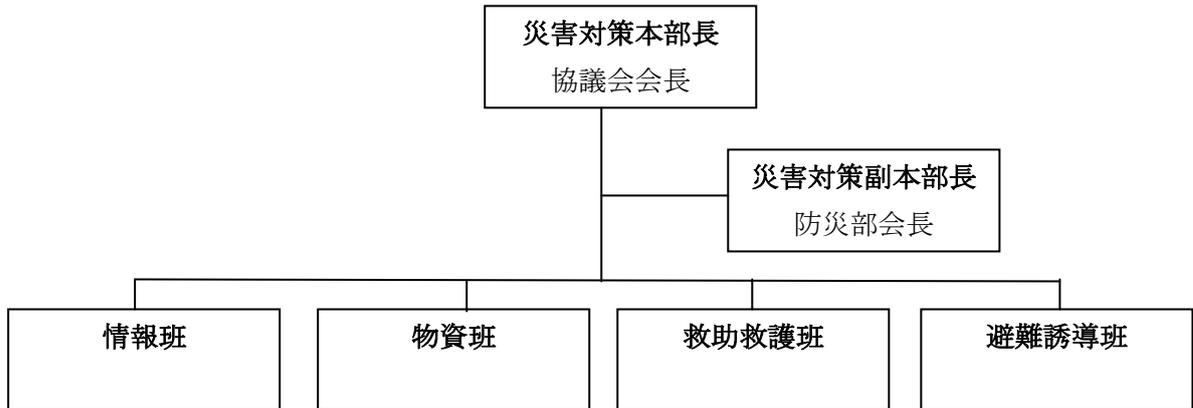
2. 「地域としての防災体制作りと継続的な訓練やマニュアル化のしくみづくり」活動

次の東町協議会災害対策本部の組織をイメージして、防災部会にての部会メンバーが、組織イメージの 4 つ班について、

- ・ ・それぞれの役割を遂行するために平常時から整備すべき情報や備品の整理
- ・ ・災害本部設置に役割遂行に必要な仕組みやプロセス、手順の整理

結果をマニュアルとして文書化する。文書化したマニュアルを用いて毎年訓練を実施し、訓練結果を踏まえて、マニュアルは段階的に毎年、整備充実を図る。また、市危機管理室とも連携を深める。

<東町協議会災害対策本部の組織イメージ>



担当名	役割
本部長	全体指揮
副本部長	本部長補佐、市との連携
情報班	町レベルでの居住者安否や建物被害確認、危険箇所の周知。当領域での各集合住宅内の状況収集と対応、市との連携
物資班	町レベルでのトイレ対策、備蓄品管理、炊き出し準備、救護物資確保、ゴミ置き場管理。当領域での各集合住宅内の状況収集と対応、市との連携
救助救護班	町レベルでの傷者の応急手当、救護所への搬送、当領域での各集合住宅内の状況収集と対応、市との連携
避難誘導班	町レベルでの避難方法場所の指示、要援護者の避難支援、避難時の誘導、当領域での各集合住宅内の情報収集と対応、市との連携

3. 「防災に対する住民の意識向上ための啓蒙活動」活動

住民の防災への意識は啓蒙するため、次の年間活動を計画化する予定です。

- ・防災街歩きなどイベント開催（地域避難場所や市備蓄の見学とマップの作成）
- ・東町防災ファイル配布（役立つ情報の集約での防災マニュアルを検討）
- ・防災対策グッズ紹介（役立つグッズの紹介、保存が効く保存食など）
- ・防災ラウンドテーブル開催（各集合住宅の防災関連活動の情報交換と意見収集）

4. 年間活動予定表

	イベント	防災 部会	防災マニュアル作り	意識啓蒙活動
4月	協議会総会			
5月		○	マニュアル整備のやり方の検討	
6月		○		防災まち歩き（避難場所、資材倉庫、食料備蓄など見学）
7月		○	情報版班、物資班、救助援護班、避難誘導班	
8月	夏祭り			
9月	敬老の集い	○		第1回防災ラウンドテーブル
10月	体育祭	○		
11月	文化祭	○	東町防災マニュアルまとめ	
12月		○		第1回東町防災訓練 防犯グッズ
1月		○	東町防災マニュアル反映	
2月	福祉による 安否確認	○	次年度防災部会活動計画と予算案	第2回ラウンドテーブル（次年度事業事業計画と予算）
3月		○	総会準備	

5. 想定費用

- *防災訓練のための備品購入（災害対策本部ウインドブレイカー購入@1,500*100着=150,000）
- *防災マニュアル印刷製本（地域防災手引き（20頁）の発行・全戸配布 @70*4,000部 280,000）
- *防災グッズ購入（非常持ち出し袋 10,000x10=100,000）
- *東町会館使用料（2,000*3=6,000）
- *コミュニティルームエアコン（100*3h*10=3,000）
- *講座講師謝礼（@20,000*2回=40,000）
- *事務用品（30,000）

2013 年度夏祭り計画の進め方（議事覚え）

2013. 1. 20

日時：2013 年 1 月 20 日（日）12：55～13：30 1 月度理事会の後に開催

場所：東町会館 2F

出席：小澤・蘆江・寺村・安井・河野・上田・清水千（理事）、福岡・楠本（代議員）、
武藤・柳原・森岡・玉富・山田（事務局）、山本瑞・山本一（オブザーバー）

議題

1. 結論

- ・「第 1 回 2013 年度夏祭り計画検討委員会」を開催する予定で集まった。
- ・下記 2 項のような意見を受けて、計画検討委員会設置の方針を修正し、各自治会等の過半の役員改選後の 4 月末から 5 月にかけて「2013 年度夏祭り実行委員会」として設置することとした。異論はなく了承された。
- ・本日参集された各位は後日設置される実行委員会に当然参加されるべき方なので、本日配布の資料（反省会時の意見・提言記録とそれらを 5 分野に整理したもの）を次年度夏祭りを本年度以上のものとするために、読んでおいて頂くこととした。

2. 当委員会における意見

- ・自治会としては、役員改選が間近となり、今から新たに「2013 年度夏祭り」の企画検討を始めるという気持ちにはなれない。新体制で取り組むべきではないか。
- ・自治会の新役員の立場で考えると、前期の役員がまとめたプランをただ実行するとなると意欲が湧きにくい。新体制になってから始めた方がよい。
- ・本年度の夏祭りは、協議会発足後実行委員会を設置し活動を開始したが、本番までの時間が少なかったため、不手際を生じさせたと反省している。極力早い時期に計画検討を開始しようというのが、夏祭り計画検討委員会設置の理由であった。
- ・前回夏祭り終了後、直ちに計画検討を始めたのであればその主旨を理解できるが、この時期に始めてもあまり意味はない。新しい体制で新しい企画を考えればよい。
- ・本年度、作業運営方法の文書化も行い、また多くの事務局員等がサポートする中でそれぞれ体験をつむことができた、これらがあれば次年度の対応は出来るはず。
- ・連協時代から新体制後になった後に準備を始めて成功させてきた。5 千人も集まるような盛況な夏祭りもあった。従来の方法で十分対応出来ると思う。
- ・毎年新たなメンバーが参加して実行委員会を編成し、そのメンバーが後の担い手になってくれている。こうした年々の活動サイクルを継続すべき。
- ・本年度の夏祭りが悪天候の影響を受けた中であれ程多くの参加者があった、懸念された現金精算方式も含めて大いに成功したと認識している。
- ・いくつかの分担に分けて行われた作業運営は良かったと思うが、全体を統括する点で問題があった、今回はここを見直せばうまくゆくと思う。
- ・夏祭りの地域自治協議会の活動における位置の重要性からも、実行委員長は協議会会長が就くべき。新会長が当年度の夏祭りをどうしたいのか明確に示せば、他の実行委員はそれを実現するため協力を惜しまないはず。
- ・夏祭りの開催目的も 3 つ程考えられる、目的を考慮しながら運営に務めるべき。
- ・目的がどうかなどと考えず、楽しめる催しができればよい。
- ・遠隔地に行った家族がお盆休みの頃に帰りたくなる夏祭りの催しができればよい。

新千里東町地域自治協議会 平成24年度 支出状況

平成25年2月17日現在

<支出の部>

会 計	科 目	予算額	支出済額	備 考
一般会計		5,587,229		
	管理費	616,000	112,833	
	組織運営費	576,000 (576,000)	102,853	総会・理事会・委員会他会館 使用料金・資料印刷等
	事務局費	40,000 (40,000)	9,980	事務用品・交通費他
	事業費	4,904,229		
	コミュニティルーム運 営事業	109,574 (80,000)	80,000	
	東丘小学校芝生化事業	233,178 (149,175)		
	夏祭り盆踊り大会	2,744,503 (1,205,000)	1,487,669	次年度繰越 1,115,084 円
	新春交歓会	173,000 (173,000)	211,450	
	情報発信・共有事業	558,000 (558,000)	209,170	ひがしおか分担金他・新規分
	地域自治推進事業	867,974 (89,000)	23,750	
	防災事業	218,000 (218,000)	7,398	事務用品
	予備費	67,000		
	協議会予備費	67,000	0	

上段の数字は積立金を含む。

()内の数字が本年度分執行予定額

2013年2月 広報部会 2013. 2. 9 10:00~12:00

上田、寺村、森岡、柳原、玉富(市川、楠元欠席)

1. 掲示板設置の進捗状況(上田報告)
 - ・4社に見積依頼中(ワード、ボックス・コーポレーション他)
 - 今週中に提示された見積で⇒4団体の代表者に、ケース1~2案、工事業者選定
 - 豊中市・道路管理課に挨拶⇒工事場所の査察(許可)⇒工事業者発注
2. 掲示板の管理基準設定(案)の議論(玉富作成)
 - ・玉富さん原案に対して、部員よりの意見を入れ、修正⇒理事会にて、管理基準(案)配布⇒この原案で運用させていただきたい。
3. 2012年の活動報告(案)・決算見込み、2013年の事業計画(案)・予算(案)について、話しあい。・・・詳細は別紙報告
4. ホームページの運用討議
 - ・協議会の審議内容ポイント 理事会終了後⇒広報部会メンバー3日以内にまとめ
 - ⇒部会メンバー間でチェックの上⇒HP掲載(2月より運用)
5. 広報誌:「ひがしおか」への 協議会の理事会の審議内容、2か月分のホームページ記載記事を集約し(2か月で一ページ)投稿する。

.....
広報部会 活動報告

新千里東町地域自治協議会の全体ビジョン「住んでみたい、住んで良かった、これからも住み続けたい東町」を求め、時代のニーズを鑑みたさらに魅力あるまちをめざし、協議会のコミュニケーションの基盤として広報活動に部会は取り組んできた。

I. 2012 年度（本年度）の活動報告（案）

1 部会のミッション

- 協議会の「広報」について責任を持つ。
- 協議会の広報活動の企画、課題の整理、実行策を理事会に答申し、執行機関を支援する。

2 部会の体制

理事：上田稔、寺村三郎、市川幸生
 代議員：楠元俊平
 事務局：柳原一之、森岡猛碩、玉富香代
 部会のメンバーに広報誌の愛読者、広報に関心のある人、編集や Web デザインの経験者を募ったが部会メンバーを補強できなかった。

3 部会の計画（2012 年度事業計画より）

- 共同新聞の発行（広報誌「ひがしおか」の協議会ページ）
- 協議会ホームページの作成・更新
- 地域情報ボランティアセンターの検討
- インターネット基盤強化（東町会館など）

4 部会の活動

- 定例会は月 1 回、東丘コミュニティルーム。
- 参加できないメンバーは、メール参加で意見・議論に加わる。

2012 年度の活動

6 月 26 日	部会運営について討議
7 月 9 日	部会のミッション、広報誌・ホームページ・掲示板の位置付けと課題の整理
8 月 14 日	広報活動に関するアンケート内容について討議

9 月 9 日	アンケート原稿について討議
10 月 13 日	アンケートの作成・実施 (10 月 21 日理事会で協力依頼)
12 月 8 日	アンケートの解析と方向付け (12 月 16 日理事会と広報誌「ひがしおか」1 月号で結果報告)
12 月 16 日	ラウンドテーブルで情報デリバリーについて幅広く意見を聴く
2013 年 1 月 13 日	掲示板の更新・増設の提案内容討議と広報誌・ホームページでの協議会記事ピックアップ方法について
2 月 9 日	協議会ホームページの運営討議と掲示板の管理基準設定
3 月 9 日	次年度の事業計画と予算

今後の活動（検討課題）の内

- 情報デリバリーセンターの設立の検討
- インターネット基盤強化
 については、RT 及び理事会での議論内容によって、部会で検討

II. 本年度決算見込み

【支出の部】別紙一覧：エクセルシート

計 182,880 円

- 特記 1. インターネット接続強化 しなかった
- 特記 2. インターネット接続・電話代を新聞委員会から 4 月より支払(3 月度支払)
- 特記 3. 予算時なかった掲示板工事負担分 8 0 千円(3 月計上)

Ⅲ. 2013 年度の事業計画（案）

- 広報誌「ひがしおか」の協議会ページ
記事内容の選定と記事依頼
- 協議会ホームページの作成と更新
毎月の理事会の審議結果の要約発行
- 協議会ホームページの講習会(勉強会)
- インターネットの強化
福岡さん個人名義から協議会への切換え
高速回線（光回線）への切換え

Ⅳ. 2013 年度の予算(千円)

会議費	コミュニティルームエアコン使用料	4
広報費	広報誌分担金	350
事務費	部会資料印刷代	10
通信交通代	インターネット・電話代	80
計		440

(以上)

2012年度 広報部会 決算見込み

【支出の部】

項目	備考	本年度予算額	9月理事会で提案	実績見込み	
会議費	定例会館使用料	18,000		1,500	コミュニティエアコン 広報部会(課題整理、アンケート、実行策提案) 東町会館会場使用料 12,000(@3,000×4回:広報) コミュニティールームエアコン使用料 @100×3時間×20回=6,000
広報費	広報誌分担金	150,000 150,000		90,000	分担金 ひがしおか新聞(5月、7、9、11、1、3)=130,200 自治会負担金で執行(既存分) ひがしおか新聞発行負担金(地域自治関連他4団体以外の記事)(新規分)、8→12ページと 新年号のカラーページ
事務費	印刷代	65,000		6,380	部会資料印刷 会議資料コピー代5,000 印刷機インク代@4,000×15セット=60,000
通信交通費			125,000	5,000	4月分(3月出費)の インターネット 新聞委員会より変更 インターネット接続強化 初期費用10,000+@5,000×10回=60,000 電話代27,200、インターネット接続@3,143×12=37,800
謝礼金		180,000		0	情報デパハリボランティア謝礼 @4.00×3時間×5人×5回×6月
設備費	掲示板更新		150,000	80,000	掲示板協議会負担分
小計		563,000		182,880	
合計		563,000		182,880	

予算額(総会時)
563,000 838,000

掲示板の管理基準（案）

1	対象となる掲示板	<ul style="list-style-type: none"> ① こぼれび通り 長谷池付近の掲示板 ② こぼれび通り あかしや橋付近の掲示板 ③ もみじ橋通り 新千里東町公園表示板前の掲示板 ④ もみじ橋通り シティハウス千里中央前の掲示板 ⑤ 東町近隣センター 3箇所の掲示板（青葉駐車場、アソカ幼稚園近傍、東町会館近傍）
2	掲示できる物	<ul style="list-style-type: none"> ① 新千里東町地域自治協議会および協議会の代議員を選出している団体（新千里東町地域自治協議会規約別表1の団体）が発行する掲示物。 ② ①の団体が認めた掲示物。
3	掲示期間	<ul style="list-style-type: none"> ① 催しの当日、または期間の最終日まで。 ② 期日のない内容の掲示物は、3か月間。この場合は、期間終了後に撤去し、同じ内容の掲示物を新たに掲示することができます。
4	掲示物の要件	<ul style="list-style-type: none"> ① 掲示物の大きさは、A4判、タテ型とします。ただし、2の②の掲示物（公共機関等の発行物など）でA4判を超える場合、掲示スペースに余裕があれば掲示できるものとします。 ② 掲示物には、発行者（団体名）、連絡先、掲示期間を記載してください。1の②の場合は、掲示を認めた団体名の記載も必要です。
5	掲示物の掲示・撤去	<ul style="list-style-type: none"> ① 掲示物は、発行する団体の責任で掲示・撤去するものとします。 ② 掲示期間を過ぎているもの、管理基準を守っていないもの、大きく破損・汚損したものは、管理者が撤去して処分する場合があります。
6	管理者	新千里東町地域自治協議会 広報部会



地域づくり計画策定部会

分科会「各団地に共通ないしまたがる課題解決の検討部会」の概要

設置の主旨	東町のビジョン実現のため地域づくり計画を策定・推進するエンジン役を担うべき「地域づくり計画策定部会」が設置された。 東町は集合住宅で構成される。近年、中層住宅が順次、高層住宅に建て替えられ防災面では比較的安心な町と言われる。通学路は人と車が分離され子育て面でも安心な町である。そして、何よりも緑に恵まれた町。一方、東町が作られて40年、住民の世代交代もあるが高齢化は著しい。このような環境をベースに、活力があり、隣人に優しく、魅力あふれる地域にリニューアルしたい、これが「地域づくり計画策定部会」の役目。
活動内容	東町にないものの1つ「高齢者向け介護施設・介護サービス」。2ヶ所の公営住宅の建て替えを機に「要介護高齢者施設の誘致」に取り組む。 東町が40周年を迎える今、緑の整備、道路の安全、公園・遊び場の活用、住民のマナー向上など更に生活しやすい環境整備に向けて取り組む。 東町の約40の団体は、それぞれ情報発信を適切に行っているが、相互の連携、住民の声の組み上げなどがしやすい町の拠点整備に取り組む。
分化会構成	矢口部会長(理事)・清水副部会長(理事)・大矢(理事)・横山(理事)・下野(理事)、部会活動を活性化するため代議員・一般住民の方に公募中。
活動経過	8月より月1～2回、各2時間の分科会を開催し討議している

第1回部会	第2回部会	第3回部会	第4回部会	第5回部会	第6回部会
8月12日(日)	9月16日(日)	10月6日(土)	10月21日(日)	11月12日(月)	12月2日/5日
活動方針と解決に取り組む課題の審議	課題に関するフリースク、介護施設研究	現況調査項目の検討、周辺介護施設調査	拠点施設利用実態調査	介護事業者ヒヤリング、環境ニーズ調査	NT再生推進課説明会、介護施設誘致要望書

来年度計画	要介護高齢者施設誘致、環境整備については準備も含め実施段階にある。拠点整備に関しては、当面の課題と中長期的に取り組む課題があり関係者との協議を経て、実現可能なものから実施に移す
-------	--

回答数 74 件、討議参加希望 3 名（ローレルコートあかしあ分追加記載）

1. 樹木の手入れ管理

- ・もみじ橋通りの雑木林の整備 29 件
- ・こもれび通りのアカシアの木の整備 6 件

2. 休憩所・トイレ・ベンチ

- ・休憩所・ベンチの設置希望 19 件…高齢化時代の指摘
- ・トイレ 賛否両論
片がついた問題と議論すべきでないとの意見も
- ・ゴミ箱 賛否両論
ゴミ拾いをするため必要という意見も

3. 子供の遊び場・児童公園

- ・子供のための遊び場 30 件…コミュニティスクール

4. 安全

- ・道路の坂、傾斜地の対策 19 件…高齢化時代の指摘
- ・防犯 6 件

5. 集会場・人だまり

- ・集まる場所の必要性 25 件…コミュニティスクール
- ・近隣センター、街角広場 使いにくいとの意見多数

6. 住民マナー

- ・歩行マナー（ゴミ・タバコ等） 30 件
- ・バイク・自転車走行 18 件

新千里東町の環境アンケートについて（お願い）

地域自治協議会で、本件の検討を始められたことに賛同し、協力させていただきたいと思っておりますが、以下の点、ご留意いただきたくお願い申し上げます。

ジオメゾン新千里東町 4-320 寺村 三郎

① これまで、東町の住環境の整備に大勢の方が取り組んできました。（抜けがあると思いますが）

これまでの環境問題に関する検討経過・実績を評価の上、環境整備をお願いします。

- 歩いて暮らせるまちづくりモデル（平成12年）
- 街角広場の開設（平成13年）
- スーパー防犯灯の設置（平成14年）
- 公園をよくする会（連協 平成19年～）
- 東丘住居地区バリアフリー事業計画（平成23年）
- 東町将来像ビジョン（住環境）（地域自治準備委員会 平成23年）

実施できていない項目も多々ありますので、ぜひフォローしていただきたいと思っております。

② アンケート設問2 休憩所やトイレ、ベンチなどの設備について

休憩所やベンチの設置は検討対象と思っておりますが、トイレやゴミ箱の設置については、検討対象外にしていただきたいと思っております。

ゴミ箱・・・その周辺が汚れるだけです。ゴミは必ず持ち帰るのが原則。

トイレ・・・これまでも、千里東町公園利用団体から2回以上の要望がありましたが、連協として拒否してきました。このアンケートで改めて設問を設けたことは、これまでの姿勢を変えたとの印象を受けます。設問を設けたこと自体が残念です。

③ 整備をお願いしたい場所（以前から検討課題になっている）

- もみじ橋通りと桜ヶ丘の間の雑木林の整備・・・ここは雑木林として保全。竹を伐採したい
- 保育園横、テニスコート東側のフェンス・夾竹桃・・・見通しをよくし、柵を設けフェンスを撤去
- 長谷池の景観・・・藻の除去作業は継続的に実施されていますが、アジサイが荒れています。
- 長谷池周辺の歩行路・階段・・・荒れています。
- バリアフリー事業計画での実施予定項目のフォロー
- 千里中央公園の整備など

④ 具体化に当たってのお願い

ごく少数の反対意見で具体化が進まない可能性がありますので、対抗できる手順を踏む必要があると思っております。（着実な住民の総意の集約など）時間はかかると思っておりますが、よろしく申し上げます。